

2018

[共同研究]

# 先史時代における 社会複雑化・ 地域多様化の研究

山田康弘 編



共同研究の経過と概要 山田康弘

縄文文化の北方適応形態 福田正宏

北海道千歳市キウス4遺跡出土石錐の使用痕分析 高瀬克範

北上川流域における縄文時代前期環状集落に関する研究 菅野智則

環状集落の分節構造と異系統家屋 谷口康浩

「モニュメント」としての多数合葬・複葬例再考 山田康弘

縄文時代晩期の中部日本における社会動態の可能性 長田友也

関西縄文社会の地域的特色とその背景 瀬口真司

<遺跡の消長>研究に見る  
近畿・中国地方の縄文集団動態論的方法的・論理的課題 富井 眞

頭骨形態からみた縄文人の地域性 近藤 修

千葉県茂原市下太田貝塚の  
多数遺骸集積土坑人骨群における同時代性の検証 米田 穰

# 国立歴史民俗博物館 研究報告

第208集  
平成30年3月

Bulletin of  
the National Museum  
of Japanese History

Collaborative Research:  
Study of Social Complexity and Regional  
Diversification in the Prehistoric Age

Edited by YAMADA Yasuhiro

国立歴史民俗博物館  
研究報告  
第208集

【共同研究】  
先史時代における  
社会複雑化・地域多様化の研究

山田康弘 編

目次

共同研究の経過と概要	山田康弘	1
縄文文化の北方適応形態	福田正宏	9
北海道千歳市キウス4遺跡 出土石錐の使用痕分析 機能・用途推定と資源管理のあり方に関する検討	高瀬克範	45
北上川流域における縄文時代 前期環状集落に関する研究	菅野智則	83
環状集落の分節構造と異系統家屋	谷口康浩	113
「モニュメント」としての多数合葬・複葬例再考 下太田貝塚における多数遺骸集積土坑の検討を中心に	山田康弘	143
縄文時代晩期の中部日本における 社会動態の可能性	長田友也	165
関西縄文社会の地域的特色とその背景	瀬口眞司	191
<遺跡の消長>研究に見る近畿・中国地方の 縄文集団動態論の方法的・論理的課題	富井 眞	215
頭骨形態からみた縄文人の地域性	近藤 修	249
千葉県茂原市下太田貝塚の多数遺骸集積 土坑人骨群における同時代性の検証	米田 穰	269

Contents:

YAMADA Yasuhiro	Progress and Result of the Collaborative Research .....	1
FUKUDA Masahiro	Jomon Cultural Adaptations to the Northern Environment .....	9
TAKASE Katsunori	Functional Analysis of Late Jomon Drills : A Case Study on Stone Tools from the Kiusu 4 Site, Hokkaido, Northern Japan .....	45
KANNO Tomonori	A Study of Circular Settlements of the Early Jomon Period in the Kitakami River Basin .....	83
TANIGUCHI Yasuhiro	The Segmentation Structure of Circular Villages and Extraneous Houses .....	113
YAMADA Yasuhiro	Reconsideration of Mass Secondary Burials Serving as Monuments : Focused on Mass Burial Pits at the Shimo'ota Shell Mound .....	143
OSADA Tomonari	Possible Social Dynamics in Central Japan in the Late Jomon Period .....	165
SEGUCHI Shinji	The Factor and Background of Characteristic of Jomon Society in Kansai District .....	191
TOMII Makoto	A Review of the Study of Population Dynamics in the Kinki and Chugoku Regions in the Jomon Period with Focus on Methodological and Theoretical Issues in the Archaeological "Ebb and Flow Diagram" Research .....	215
KONDO Osamu	Regional Variation of Jomon People as Viewed from Cranial Metrics .....	249
YONEDA Minoru	An Analysis of Contemporaneity in the Skeletons Unearthed from Mass Burial Pits at the Shimo'ota Shell Midden in Mobara City, Chiba Prefecture .....	269

## 『国立歴史民俗博物館研究報告』投稿要項

平成 29 年 3 月 27 日 研究推進センター会議決定

### 1 定義

- 1.1 『国立歴史民俗博物館研究報告』(以下「研究報告」という。)は、国立歴史民俗博物館(以下「本館」という。)の研究資源、機器等を利用した研究成果を掲載する本館における最も基本的な刊行物であり、歴史学、考古学、民俗学及びそれらの協業による広義の歴史学並びにそれらと関連する諸分野に関する「論文」、「研究ノート」、「資料紹介」、「調査研究活動報告」(以下「論文等」という。)を發表することにより、それらの学問の発展に寄与するものである。
- 1.2 通常号は、本館が定期的に刊行する研究成果の報告書であり、特集号は、本館共同研究等の成果報告書である。
- 1.3 掲載される論文等には、次の区分がある。
  - 一 論文：歴史学、考古学及び民俗学並びにそれらと関連する諸分野に関するオリジナルな研究の成果をまとめたもの、若しくはある分野に関する研究史や研究成果、現状、展望等を総覧し、総合的にまとめたもの
  - 二 研究ノート：研究の中間報告等大きな研究の一部をなすもの、若しくは予察、試論、着想等を提示するもの
  - 三 資料紹介：歴史・考古・民俗・博物館に関する資料の紹介や解題・翻刻を主としたもの
  - 四 調査研究活動報告：本館の事業や研究活動の内容について報告するもの、若しくは調査・研究の基礎情報を提示するもの
- 1.4 研究報告は、原則として本館のリポジトリに登録される。

### 2 資格

- 2.1 通常号に投稿できる者は、次のとおりである。なお、共著の場合は筆頭著者が以下に該当する者であること。
  - 一 本館の教職員、客員教員、名誉教授
  - 二 本館運営会議委員
  - 三 本館の共同研究員等
  - 四 本館が受け入れた各種研究員、研究協力者(リサーチアシスタントを含む)
  - 五 本館特別共同利用研究員のうち受入期間中の研究成果の發表を希望する者で、指導教員が推薦した者
  - 六 総合研究大学院大学文化科学研究科日本歴史研究専攻の大学院生
  - 七 本館の館蔵資料を調査・研究し、その成果をまとめた者
  - 八 その他、研究報告編集委員会(以下「委員会」という。)が適当と認めた者
- 2.2 特集号に投稿できる者は、次のとおりである。なお、共著の場合は筆頭著者が以下に該当する者であること。
  - 一 本館の共同研究員等
  - 二 その他、本館共同研究等の代表が必要と判断し、委員会が適当と認めた者

### 3 投稿

- 3.1 原稿は、区分を問わず未發表のものとする。また、二重投稿は認めない。
- 3.2 原稿の区分は、執筆者が明示する。なお、この区分の最終的な調整は委員会において行う。
- 3.3 原稿の使用言語は、原則として日本語とする。他の言語を用いる場合は、日本語の翻訳又は抄訳を付ける。
- 3.4 「論文」には、800 字以内の日本語要旨及び 400 語程度の英語要旨並びに 5 項目以内のキーワードを付ける。
- 3.5 原稿の分量は、区分を問わず刷り上がりが 40 頁(写真、図版、表及び論文要旨等を含む)以内を目安とする。なお、1 頁の文字数は 1,700 字を目安とする。
- 3.6 特集号の原稿の総分量は、原則として、刷り上がりが 500 頁(写真、図版、表及び論文要旨等を含む)以内に収めるものとする。
- 3.7 カラー図版は、原則として認めない。希望する場合は理由を提出し、委員会の許可を得る。
- 3.8 写真・図版・翻刻等の研究報告及び本館のリポジトリへの掲載に関する許諾は執筆者がとり、使用料も原則として執筆者が負担する。

3.9 その他、原稿の執筆・提出に関する詳細は別に定める。

#### 4 受理・採録

- 4.1 原稿は、委員会で定めた査読者による査読を経て、委員会が審査の上、掲載の可否を決定する。
- 4.2 原稿は、採否にかかわらず原則として返却しない。返却を希望する写真、図版等のある場合には申し出ること。
- 4.3 掲載順序は、通常号においては「論文」、「研究ノート」、「資料紹介」、「調査研究活動報告」の順とし、同区分の場合は著者の五十音順とする。特集号においては本館共同研究等の代表が定める。

#### 5 権利関係

- 5.1 研究報告の編集著作権は大学共同利用機関法人人間文化研究機構にあり、論文等の著作権は執筆者に属する。
- 5.2 本館は、本館のリポジトリに関して複製権と公衆送信権をもつ。但し、執筆者は公開に適さない部分の削除・非公開を表明できる。
- 5.3 執筆者の所属機関等のリポジトリでの公開は、研究報告の紙型を用いた場合は刊行から1年後以降、データのみの場合は初出を明記した上で奥付日以降に可能とする。なお、所属機関等のリポジトリに公開を希望する場合は、本館に連絡する。

#### 6 その他

- 6.1 本館で作成する抜刷りは、100部までとする。
- 6.2 稿料の支払い、掲載料の徴収は行わない。
- 6.3 本要項の改訂に際しては、委員会が原案を作成し、研究推進センターが決定する。
- 6.4 提出先・連絡先

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117番地  
国立歴史民俗博物館研究協力課 研究報告担当（代表電話 043-486-0123）

#### 附 則

『国立歴史民俗博物館研究報告』寄稿要項（通常号）及び『国立歴史民俗博物館研究報告』寄稿要項（特集号）は廃止する。

**〔国立歴史民俗博物館研究報告編集委員会〕**

**館外委員** (五十音順)

伊藤紫織 尚美学園大学芸術情報学部  
田中 裕 茨城大学人文社会科学部  
本郷恵子 東京大学史料編纂所  
和田 健 千葉大学国際教養学部・大学院人文公共学府

**館内委員**

工藤雄一郎 研究部考古研究系  
小池 淳一 研究部民俗研究系 (編集委員長)  
後藤 真 研究部  
樋浦 郷子 研究部  
関沢まゆみ 研究部民俗研究系 (研究推進センター長)

国立歴史民俗博物館研究報告 第208集  
〔共同研究〕先史時代における社会複雑化・地域多様化の研究  
山田康弘 編

●  
平成30年(2018) 3月9日 第1版第1刷発行

(非売品)

発行所

●  
大学共同利用機関法人  
人間文化研究機構

**国立歴史民俗博物館**

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町117 ☎043-486-0123(代)

印刷・製本所

●  
**河北印刷株式会社**

〒601-8461 京都府京都市南区唐橋門脇町28 ☎075-691-5121(代)

〔装丁〕 中山銀士

# Bulletin of the National Museum of Japanese History

---

Collaborative Research :  
**Study of Social Complexity and Regional  
Diversification in the Prehistoric Age**

Edited by YAMADA Yasuhiro

---



Progress and Result of the Collaborative Research  
YAMADA Yasuhiro

Jomon Cultural Adaptations to the Northern Environment  
FUKUDA Masahiro

Functional Analysis of Late Jomon Drills : A Case Study on Stone Tools from the Kiusu 4 Site, Hokkaido, Northern Japan  
TAKASE Katsunori

A Study of Circular Settlements of the Early Jomon Period in the Kitakami River Basin  
KANNO Tomonori

The Segmentation Structure of Circular Villages and Extraneous Houses  
TANIGUCHI Yasuhiro

Reconsideration of Mass Secondary Burials Serving as Monuments : Focused on Mass Burial Pits at the Shimo'ota Shell Mound  
YAMADA Yasuhiro

Possible Social Dynamics in Central Japan in the Late Jomon Period  
OSADA Tomonari

The Factor and Background of Characteristic of Jomon Society in Kansai District  
SEGUCHI Shinji

A Review of the Study of Population Dynamics in the Kinki and Chugoku Regions in the Jomon Period  
with Focus on Methodological and Theoretical Issues in the Archaeological "Ebb and Flow Diagram" Research  
TOMII Makoto

Regional Variation of Jomon People as Viewed from Cranial Metrics  
KONDO Osamu

An Analysis of Contemporaneity in the Skeletons Unearthed from Mass Burial Pits  
at the Shimo'ota Shell Midden in Mobara City, Chiba Prefecture  
YONEDA Minoru

ISSN 0286-7400

vol. 208  
2018